

小田原

広

報

まちづくり情報誌

2000 5 月号
1

平成12年5月1日発行
No.770

小田原天命釜 現る！



小田原鋳物の
魅力に迫る

幻の名茶湯釜

小田原天命釜 復元に挑む

「西の芦屋・東の天命」と、天下の名茶湯釜として並び称された小田原天命釜。

戦国時代、茶湯者として

名高い千利休の高弟山上宗二が、北条氏を頼って

小田原に來ました。北条氏の旧臣の記した

「小田原日記」に、この

ころ北条氏を始めとして家臣が茶道に耽溺

し、早川・荻窪・久野に茶屋を設けたとあるこ

とからも、次第に釜の需要が増え、鑄物が盛

んな小田原で作る釜に磨きがかかってきたもの

と思われま

す。そして江戸の中ごろ、京都の釜師西村道治が著した「釜師之由緒」には、小田原に天命釜ありと高く評価されています。

この天命釜の特色を持った茶湯釜を、小田原伝統鑄物普及保存会が、苦心

の末現代によりみがえらせました。

問 商工課 ☎ 33 15 15



小田原天命釜のルーツ

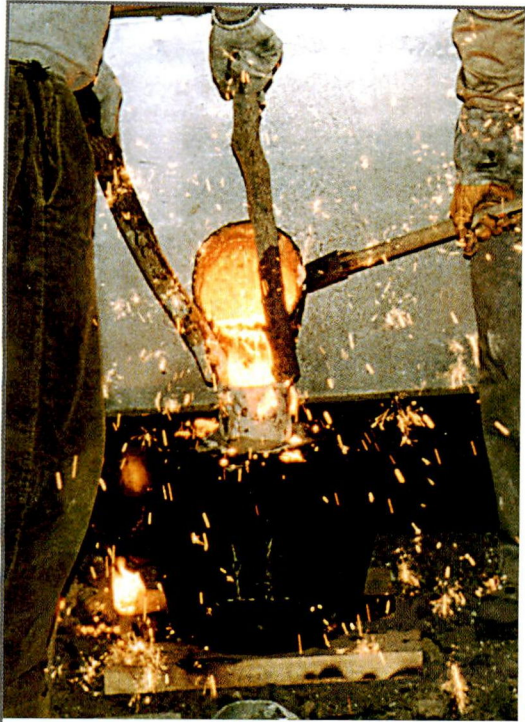
小田原で鑄られた茶湯釜は、「西の芦屋（現福岡県芦屋町）・東の天命（現栃木県佐野市）」と並び称される天下の名茶湯釜の一つに数えられていました。

数ある鑄物の中でも、茶湯釜が製作されるようになったのは鎌倉時代以降のこと。その双壁を為したのは芦屋釜と天命釜で、両者とも室町時代に最盛期を迎えました。

天命釜は下野国佐野庄天明一帯（現栃木県佐野市）で製作された釜の総称で、天明・天猫などの文字があてられることもあります。天命では、芦屋より古くから鑄物技術が発達していたようですが、日常雑器を作っていた期間が長く、茶湯釜を製作したのは芦屋よりも100年ほど遅かったと伝えられています。

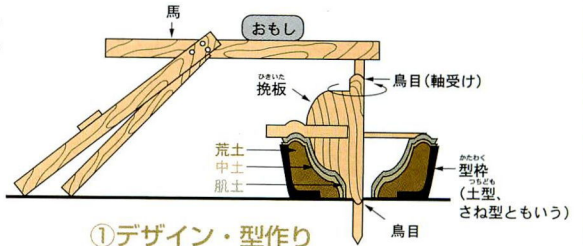
芦屋釜が、姿形が整い華麗な文様があり、洗練され上品であるのに対し、天命釜は堂々としてりりしい姿形や、装飾文様がなく肌にてこの工夫を凝らした、重厚にして素朴な風貌に特色があります。この天命の系統から分かれたものが、小田原の天命釜なのです。荒々しい中に素朴さを持つということが「わび茶」の意にかなひ、大いにもてはやされました。

しかし、資料がほとんど残っていないため、この小田原天命釜が本当はどんなものであったのかを知ることはできません。今回の復元にあたっては、現存したらこういう感じであったろうと思われるような、天命釜の特徴をそなえたものを製作しました。



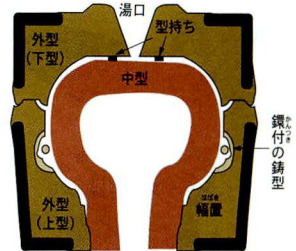
②流し込み

溶解炉に金属を入れて溶かします。この金属の温度は約1450度。鑄型の湯口から、溶けた金属を流し込みます。溶け具合によって品質も変わり、温度が下がるとすぐ固まってしまうので、すばやく作業をしなければならぬ、一番緊張する瞬間です。



①デザイン・型作り

デザインを決め、縦の断面図を実物大で描きます。これを木や鉄の板で作って、回転させるための軸などをつけて、挽板を作ります。これが、製品の型を決める鑄型のもとになります。鑄型は、粘土の混じった砂で、外型と中型に分けて作ります。外型は、型枠の中に鑄物土を塗りつけながら、挽板を回転させて形を整えます。中型は、外型の中に砂を入れて釜と同じ形の塊を作り、乾燥後取り出して、金属の厚みの分だけ砂を削り落とします。鑄型は、製品を取り出すときに壊すため、作る製品の数だけ必要になります。



③型から取り出す

固まったら、鑄型を壊して取り出します。その後、やすりで磨いたり色を付けたりして、仕上げの作業をすればできあがりです。



天命釜復元にかける思い



天命釜のほか、鐘・風鈴・シンバルに代表される鳴り物など、数多くの名品を産み出してきた小田原鑄物は、約500年前に鑄物師の山田治郎左衛門が、北条氏の庇護のもと、小田原に移り住んだことに始まります。以降、小田原は戦国の末期から江戸時代の終わるまで、相模鑄物の中心的な位置を占め、東国を代表する鑄物生産地でした。

しかし今、その歴史と伝統を連綿と引き継いでいる伝統鑄物工房は、柏木美術鑄物研究所だけとなってしまいました。ここでは、北条時代から続く小田原の伝統的な作品である鳴り物を中心に美術工芸鑄物などを世に送り出し、高い評価を受けています。しかし、鑄物師の高齢化や後継者不足から、次世代への技術の継承が危ぶまれています。そこで、小田原鑄物の研究・保存・継承を目的に、小田原伝統鑄物普及保存会が設立されました。県立小田原城北工業高校新機械技術部の部活動を指導する先生を中心に、生徒や市民が一緒に、小田原鑄物作品の製作、柏木家で不要となった鑄型の保存、歴史的な作品の復元などの活動を展開しています。将来的には、小田原の文化遺産である小田原鑄物の伝承や後継者の育成なども働きかけていきたいと考えています。

みんなで作った釜

もともと私は、コンピュータで描いた図面を、機械に描かせることに取り組んでいました。あるとき、1000分の1も違わない鑄物を作る相談を受け、初めて鑄物と出会いました。そして、柏木美術鑄物研究所の鑄物師、柏木晴光さんに風鈴を作る技術を教えてもらい、鑄物に興味を持っていろいろ調べているときに、天命釜の存在を知りました。



高校生の作業風景



小田原伝統鑄物普及保存会・県立小田原城北工業高校教諭 上島国澄さん

作ってみたいと思ったものの、鑄物はまったくの素人です。いろいろな人に指導・協力してもらいながら、鉄を溶かす溶解炉から鑄型の製作など、試行錯誤と研究を重ね、ようやく完成させることができました。何とか形にできた釜を柏木さんに見せたら、「おめでどう、よくがんばったね」と握手を求められ、本当にうれしかったです。ここまでできたのは、協力してくれた皆さんがいたからこそ。今後は、天命釜にもいろいろな形があるので、いくつかチャレンジしてみたいと思います。

小田原鋳物の足跡をたどる

「小田原鋳物」で有名なのは、小田原天命釜だけではありません。黒澤明監督の「赤ひげ」のロケ用に特別に作った小田原風鈴。宮内庁の車が本家柏木鋳物宅に横付けして製作依頼をしたという新宿御苑の鐘。世界のシンバルメーカー・ジルジャンに次ぐ地位を占めたシンバル。江戸時代からおおよそ300年以上の歴史を持つ小田原鋳物の工房・柏木家では、ほかにも数々の名品を世に送り出してきました。

問 商工課 331515

鋳物の歴史と価値

「鋳物」とは、高温に熱して溶かした鉄・銅・アルミニウムなどの金属を鋳型に流し込み、冷やして固まらせたものです。鍋や釜といった生活用品から、仏像やオブジェのような芸術性の高い美術品まで、幅広い用途に使われています。

古代から、硬くて強い金属を手に入れることは、その地域における富や実権を握ることを意味し、金属とその加工技術を知ることには大きな価値がありました。

時代の流れによって、鋳物の技術で軍事的色彩の強いものを作ることが求められたこともあり、鋳物の歴史と日本の政治

や経済の変遷は大きな関わりを持っているため、興味深く振り返ることができます。

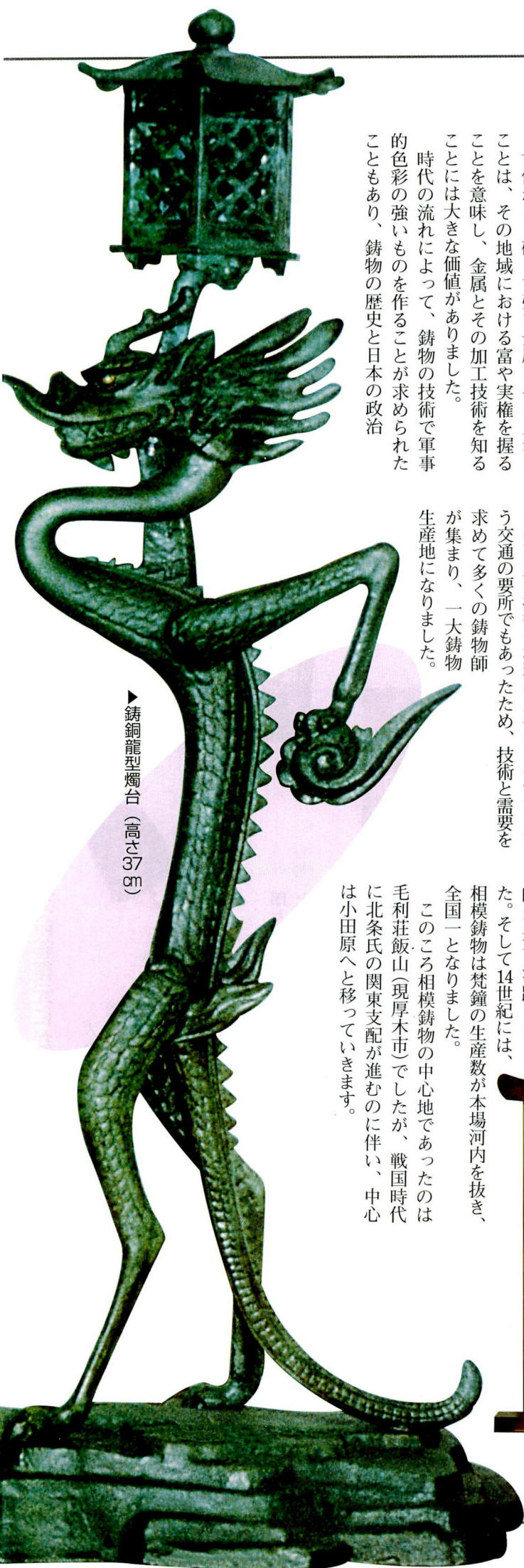
河内から相模へ

日本の鋳物の発祥の地は、河内国（現大阪府南河内郡美原町）とされています。大和政権という政治と文化の中心地に近く、大陸からの高度な技術や材料の入手がしやすいという交通の要所でもあったため、技術と需要を求めて多くの鋳物師が集まり、一大鋳物生産地になりました。

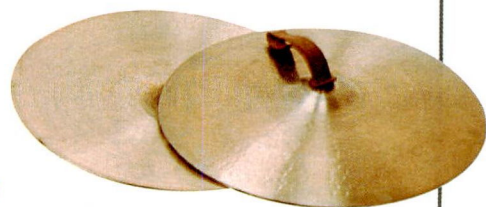
鎌倉幕府が創設されて政治の中心が鎌倉に移ると、関東地方に多くの寺社が建てられ、仏像や鐘などの鋳物需要が増大し、河内からも多くの鋳物師が来て活躍しました。そして14世紀には、相模鋳物は梵鐘の生産数が本場河内を抜き、全国一となりました。

このころ相模鋳物の中心地であったのは毛利荘飯山（現厚木市）でしたが、戦国時代に北条氏の関東支配が進むのに伴い、中心は小田原へと移っていきます。

▶ 鋳銅龍型燭台（高さ37cm）



◀ 砂張り喚鐘（高さ23cm、径13cm）



▲ 砂張り高級シンバル（径41cm）

小田原鋳物の誕生と軌跡

二代目の北条氏綱は、領国支配における軍事面強化の必要性から、消費地に近くて原材料の入手が容易な相模国内三か所に新たな町「新宿」を設け、そこに鋳物師を住まわせました。国内に分散する鋳物師を集約させ、軍需・民需面での統制と生産の効率化を狙ったものと思われます。そのうちの一つが小田原にありました。これが小田原鋳物の始まりです。

室町時代、関八州を治めた北条氏の支配体制の中で、小田原の特権鋳物師として名高い山田治郎左衛門は、北条氏が日常に使う鍋・釜から、豊臣秀吉との戦争を前にするころには鉄砲・大砲といった軍物品まで、さまざまなものを生産しました。

江戸時代になると、生産農具や生活用品の鋳物需要が高まり、鋳物師は人々の要求に応じて製品を作り、独立して商売を行うものもいました。

小田原では相模の国の鋳物需要の半数以上を生産し、多くの鋳物師も輩出しました。小田原鋳物がもつとも盛



▶タツノオトシゴ



▶古色面ベル

んで充実した時期でした。

明治時代に入ると生活環境が大きく変わり、鋳物の需要も落ち込みました。小田原鋳物の伝統を守り続け、同じ名を代々名乗って祖先から仕事を引き継いできた山田治郎左衛門も鋳物業から撤退したため、この伝統は柏木家へと引き継がれました。仏鈴・振鈴などの鳴り物を中心に作っていた柏木鋳物は、音色が良く安価な物を大量に生産して小田原の鳴り物メーカーとして有名になり、海外へも製品が出荷されました。昭和12年には、カニやクワガタなどの小物精密鋳物の技術が認められた本家柏木鋳物の二代目の甥が、柏木美術鋳物研究所を設立しました。

第二次世界大戦が始まると、軍の音楽隊がシンバルの試作の発注を柏木美術鋳物研究所にしてきたこともあり、このとき研究を重ねたシンバルは、結果として日本のトップメーカーの位置を占め、世界のシンバルメーカーに次ぐという成果を上げます。

鋳物師も順に兵隊にとられて激減してしまっただけ、生産体制は大きな打撃を受けました。鳴り物や美術工芸品を中心に生産し、

数々の名品を世に送り出してきた柏木家も、本家柏木鋳物の経営者が高齢になり、昭和60年に鋳物業の歴史に幕を閉じました。これ以降、小田原に残された鋳物の生産工房は、柏木美術鋳物研究所1軒となったのです。

そして未来へ

かつては人々の身近で触れることのできた小田原鋳物ですが、今では伝統工芸と呼ばれ、風に揺られて涼しげな音を立てる風鈴のようにひそやかな存在になってしまったかのようです。しかし、その澄んだ音色は確かな存在感を感じさせ、人々の心に残ります。

小田原鋳物の技術を有することは、何事にも代え難い小田原の財産ですが、それを継承し次の時代へ伝えていこうとがんばる人たちも、同じくらい大きな財産だと言えるでしょう。

現在、風鈴などの小田原鋳物の製品は、三の丸売店(藤棚横)で手に入れることができます。また、5月3日から5日に銅門広場で開かれる小田原城名物市でも販売されます。受け継がれてきた伝統の技に触れ、澄んだ音色に耳を傾ければ、いつでも懐かしい風景に帰れるかもしれません。

参考文献「炎の匠・小田原鋳物」
小田原伝統工芸鋳物研究会編著



▶魚耳花入



▶蟹

地方分権時代のリーダー都市へ

特例市を目指す

小田原市

4月からスタートした地方分権。この中で、特例市は、政令指定都市（人口50万人以上）、中核市（30万人以上）に続く第3のリーダーとして位置づけられる新しい都市制度（20万人以上）です。特例市になることで、都市としてのイメージがアップし、交流人口の増加や、地域経済活性化への効果などが期待されています。

企画政策課 331304

何が変わる？

特例市になると、生活に密着したまちづくりを進める都市計画や、河川などの水質、騒音など生活環境を守る規制などが市役所の仕事になります。

小田原市の個性に合わせたサービスが、素早く、きめ細かく提供できるようになります。

小田原市は、県西地域の中心としていち早く取り組みを始め、早期指定を目指しています。

激化する都市間競争

地域の特色を生かした個性あるまちづくりを、自らの責任で進めていくのが地方分権です。これまで以上に、都市の実力差でまちの盛衰が決まってくる時代になったと言えます。

新しい制度の中で、政令指定都市、中核市、特例市と都市のランク付けがされていきます。小田原市は、この特例市の指定を受けて、新たなリーダー都市として、さらなる飛躍を目指します。

特例市になるまで

市議会の議決

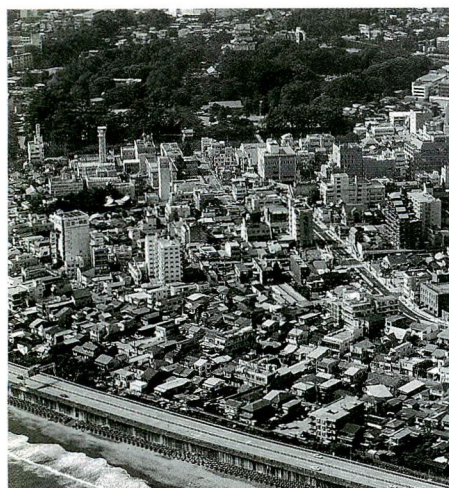
県議会の議決

県知事の同意

国に申し出

政令で指定

特例市へ移行



平成13年4月 不用になった家電は販売店へ



家電のリサイクルが

始まります

一般家庭で不用になった家電製品は、8割が小売店によって、2割が市町村によって回収されています。そして、その処理はいずれの場合も一部の金属の回収が行われる程度で、ほとんどが埋め立て処分されています。

そこで、埋め立て中心の処理からリサイクルによってもう一度生かすことを中心とした仕組みを作る法律「特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）」が、平成13年4月1日から施行されることとなりました。この法律では特定の家電製品について、販売店には回収が、製造業者にはリサイクルが義務づけられます。

環境総務課 331471

対象となる家電製品

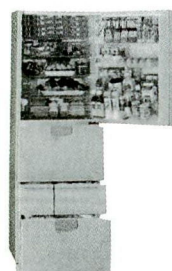
- エアコン（機器として独立しているもの）
 - 電気冷蔵庫
 - ブラウン管式テレビ
 - 電気洗濯機
- いずれの場合も家庭用の機器に限ります。（家庭で使用していても業務用の機器は対象となりません）

費用の負担

販売店の引き取り・運搬や、製造業者のリサイクルにかかる費用は、消費者が負担することになります。この場合の費用は、平成13年4月までの間に、販売店と製造業者がそれぞれ公表します。

回収、リサイクルの仕組み

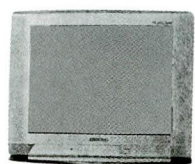
- 消費者は、その機器を買ったお店か、買い替えて同様の機器を買うお店に、不用になった機器の引き取りを求めることができます。
- 販売店は、機器の引き取りを求められたときは、必ず引き取り、その機器の製造業者に引き渡します。
- 製造業者は、引き取った機器の材料や部品を50%以上使用するか、売却できる状態にして、リサイクルしなければなりません。



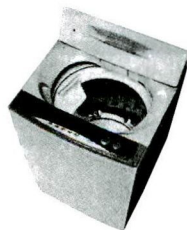
●電気冷蔵庫



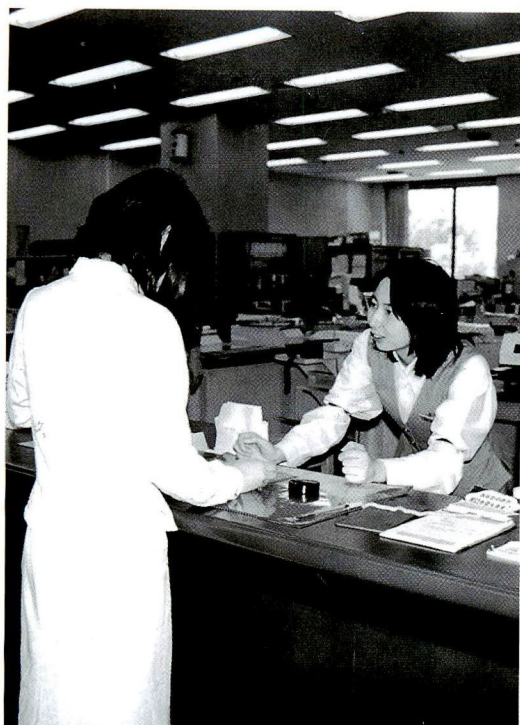
●エアコン（機器として独立しているもの）



●ブラウン管式テレビ



●電気洗濯機



小田原市行政改革 市民会議委員を 募集します

市役所の行革にあなたの視点を！

第三の改革といわれる「地方分権時代」を迎え、全国の自治体は、個性を生かしたまちを創造する能力を求められています。さまざまな分野に独自の発想で、「地域のことは、地域が決める」という「自己決定、自己責任」の原則が自治体の新たなルールになろうとしています。都市の活力は名実ともに住民に最も身近な自治体である市に委ねられ、その実力が問われる時代が幕を開けました。

☎ 行政システム改革推進課 ☎ 33-1255

平成8年度から進めてきた行政改革は着実に成果を上げ、平成12年度をもって終了します。

変化の激しい社会経済状況の中で、行政の役割をさらに見直し、平成13年度以降に必要な行政改革の検討を進めていきます。

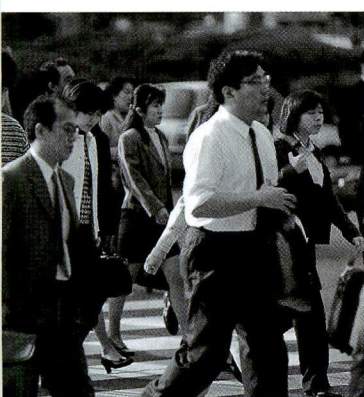
本市の行政改革は、第三者機関、いわゆる“お目付役”として、学者、企業経営者などをメンバーとする行政改革推進委員会をすでに設けています。さらに市民の皆さんの意見を市政に反映させるため、行政改革市民会議を設置します。

この行政改革市民会議は、経営者、学

識経験者、各団体からの推薦、公募による市民で構成し、さまざまな立場で市政への提言をいただくものです。

主婦、学生、勤労者など、生活者、利用者、納税者の感覚から日常感じている疑問、改善提案などを話し合いませんか。

この改革を進めるために、市民の皆さんの参加と協力をお待ちしています。



対象 市内に在住、在勤、在学の20歳以上の方

募集人員 9人

期間 7月ごろから約1年間(提言の提出まで)

会議 月1回以上。1回の会議時間は3時間程度

活動 ①会議に参加

②市行政運営についての調査及び提言

謝礼 交通費程度

応募方法 市役所総合案内、支所・連絡所、マロニエ、行政システム改革推進課(市役所3階)などで配布している申込用紙と、小論文(2000字以内)を提出してください。インターネットでもご案内しています。

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/>

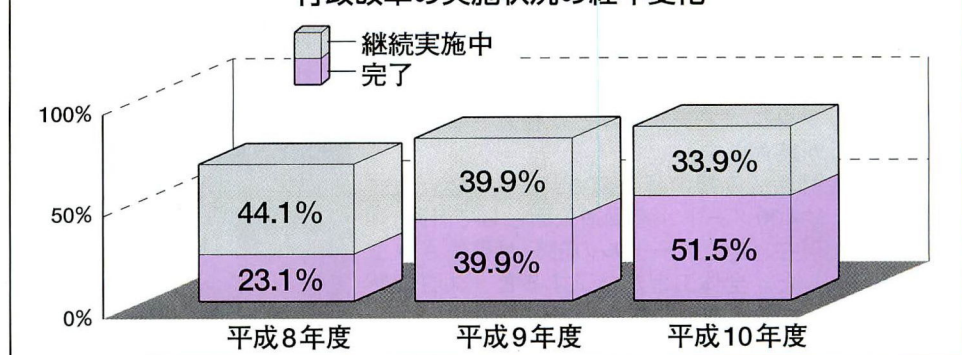
小論文のテーマ 「これからの市民と行政の望ましい関係づくり」

申込 5月31日(水)までに、郵送(〒250-8555 小田原市役所 行政システム改革推進課)、Eメール(gyosi@city.odawara.kanagawa.jp)または持参してください。

本市行政改革の3つの柱

- I 効率的な行政運営と行政能力の向上
- II 市民参加と民間活力の活用
- III 行政サービスの向上

行政改革の実施状況の経年変化



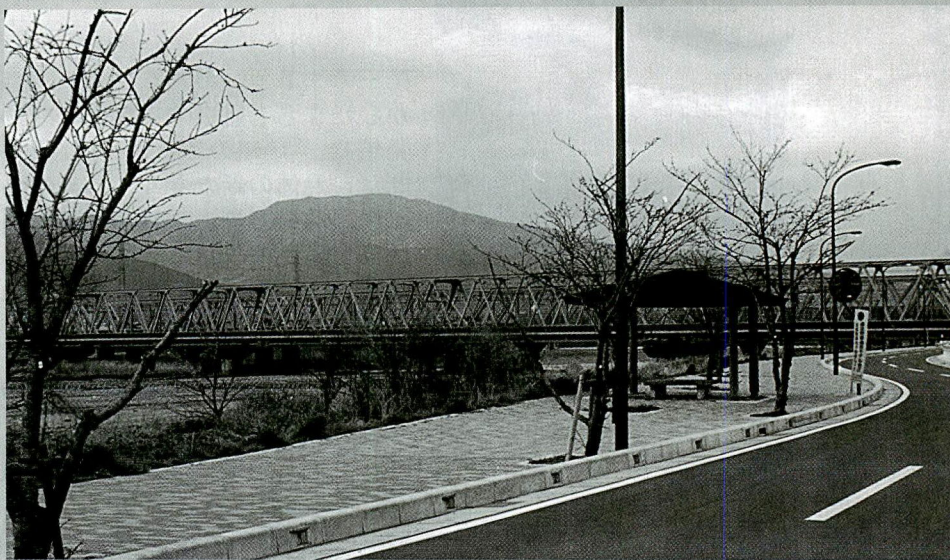
小田原、小さな旅

新緑がまぶしい！ さあ、出かけよう！

すがすがしい季節です。小田原のまちが一番みずみずしい季節です。洋服の色を少し明るめにして出かけてみませんか。小田原で、歩いていける小さな旅、発見…。



水辺の自然に親しもう！ 酒匂川沿いにバードウォッチングロード



酒匂川に沿ったこの道路は、飯泉取水堰の下流にあり、県内でも有数の、コアシサシなどの野鳥の観察ポイントです。小田原大橋から飯泉橋までの左岸堤防の区間をバードウォッチングロードと名づけ、年次計画で順次、整備しているところです。

このロードは、歩車道を分離して自転車歩行者道に十分な幅を確保しながら、バードウォッチング施設などを配置していますので、酒匂川の水辺環境や小田原の自然を楽しみながら散策できます。

将来的には酒匂橋と飯泉橋の間の酒匂川兩岸を回遊することができるよう計画をしています。

岡道路建設課 ☎33-1543



季節ごとの花々を愛でながら散策しよう！ 引き込み線跡地が緑道公園 久野緑の小径に

久野の日本たばこの引き込み線跡地を緑道公園にする工事が進んでいます。

幅2.5メートルの園路の両サイドには、トキワマンサク、サルスベリ、コブシ、ツツジ、アジサイなどが植栽された花壇が続きます。

引き込み線の延長700メートルのうち、約400メートルを緑道公園として計画し、現在、240メートルの部分が整備されました。全体工事が終了すると、久野の新しい散歩道になることでしょう。

岡公園緑地課 ☎33-1582





春は梅、初夏は溪流の音を楽しもう！ フラワーガーデンに**修景池** 水がふんだんに流れる溪流

フラワーガーデンに修景池が完成しました。
この池は、溪流の梅林を流れる水を貯め、上流に循環させるために造成したものです。

池のまわりには菖蒲田と園路が整備され、緑化のための芝張りや植樹がされています。250種の梅を中心に、ショウブ、スイセンなどがありますが、この池の完成で、水がふんだんに流されて、「溪流の梅林」がより楽しめるようになります。

☎フラワーガーデン ☎34-2814



童心にかえって、草花摘み取り体験！ 早川一夜城きらめきガーデン

早川の石垣山一夜城歴史公園前駐車場に隣接する「きらめきガーデン」は、春には菜の花をはじめハナビシソウ・キンギョソウなど季節の花々が、秋にはコスモスが満開になり、市民の憩いの場となっています。今は、ポピー・カスミソウ・ヤグルマソウが見ごろを迎えています。秋のコスモスの摘み取りに引き続き、春も好評の「草花摘み取り体験」を行います。

当日は、地元農産品の即売、ミニコンサートも行います。

日時 5月14日(日) 10:00～15:00

無料(一人一束まで)

※ハサミを持参してください。

☎農政課 ☎33-1494



早川活性化推進協議会(杉崎恪次会長)と農政課が共同で整備した早川一夜城きらめきガーデン



著しく悪質な滞納者は許しません

納税の意志がありながら、やむを得ない事情により納められない場合は対象となりません。

3月議会で条例可決

小田原市は、納税に誠意を示さない滞納者に対する行政サービスの制限や氏名公表などを含む「小田原市市税の滞納に対する特別措置に関する条例」を3月議会で可決しました。全国でも初めての試みは、マスコミで取り上げられ、他の多くの自治体からも問い合わせが殺到しています。

市では、年々累積する滞納対策として、徴税職員の再三にわたる文書あるいは戸別訪問での納税のお願いや徴収に加え、平成9年度には管理職による税徴収のための緊急対策本部を設置。翌10年には総務部職員が率先して滞納整理にあたりました。しかし、滞納者宅を個別訪問して市の財政状況や計画や事業の現状を説明し、税の確保に努めているにもかかわらず、年々滞納額が増え続けているのが現状です。

とりわけ、納税能力があるにもかかわらず支払おうとしない不誠実な滞納者をこのまま放置しては、税をきちんと納めている方々の理解を得ることはできません。

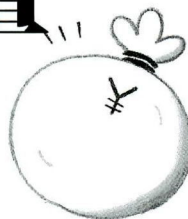
「正直者がバカをみる」という状況は絶対にあってはなりません。いわゆる「逃げ得」「ゴネ得」などをなくすため、この条例が生まれました。

キーワードは「義務」と「公平性」

言うまでもなく「税」は国民の義務のひとつです。この条例は、あくまでもその義務を果たさない「著しく誠実性を欠く滞納者」が対象です。

たとえば、十分な納税力があるにも

市税滞納特別措置条例



かわらず納税しない、再三再四の電話や文書による催促・訪問にも応じない、あるいは居留守を使う、面会の約束を破るなどです。

こうした、特に悪質な滞納者に対して行政サービスを停止し氏名を公表するにあたっては、学識経験者など第三者から構成される「市税滞納審査会」においてその滞納者から事情を聴取し、その是非を審議してもらい、さらに弁明の機会を設けるなど民主的な方法で手続きを進めます。その結果どうしても納税に応じない著しく不誠実な場合に、いわゆる最終手段を講じるというもののなのです。つまり公表にあたっては、市が一方的に行うのではなく、あくまでも二重・三重のチェックを行いながら慎重に実施します。

このことは、氏名公表などによって行政の強制力を誇示することを目的としているわけではありませんし、市の納税催促の労力を軽減しようとしているわけでもありません。

この条例の制定目的は、滞納者に

「税」の公平性・公共性を理解してもらうとともに、誠実に税を納めている市民に対する行政としての誠意を示す方策であり、国民の義務である納税を正確に理解してもらおうとするものなのです。

これからが正念場の小田原市

この施策は、不況の影響で税滞納者の増加に頭を悩

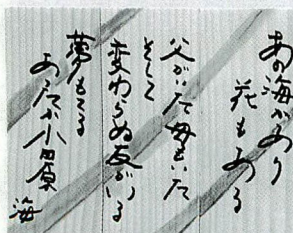
ませている全国の自治体の中で、いち早く独自性を生かした取り組みです。

しかし一方で「氏名公表などは納税者の秘密漏洩を禁じる地方公務員法や地方税法に反するのではないか」といった意見や、滞納者のプライバシーの侵害を危惧する声もあります。

これに対して、小田原市は守秘義務や名誉き損などに対して、法律や判例、学説などから不法行為に当たらないという見解を持っています。

当然、小田原市もこのような条例を掲げる以上は、より質の高い市民サービスが市民から求められるであろうし、それを提供しなければならないという使命を背負うことになります。すなわち、「税」がどのように市民の生活に生かされているかをいっそうピーアールするとともに、職員一丸となって市民サービスの向上に努めなければなりません。

全国の熱い視線を浴びながら今年7月、小田原市ではこの条例が施行され滞納審査会がスタートします。



城下町大使
阿藤 海さん

あまほこ
花まつり
父の心を
変えよう
あまほこ
海さん

小田原城下町大使で、NHK連続テレビ小説「私の青空」に出演中の俳優、阿藤海さん。もかまぼこ板に書く三行詩に挑戦。「小田原よ！わが心のまち」をテーマにすてきな詩を残してくれました。

3月25・26・4月1・2日に、小田原城銅門広場で開かれたかまぼこ板まつりには、桜の開花にはまだ早いころにもかかわらず、大勢の方が訪れました。かまぼこ手作り名人が実演する板付けや細工物の技に見入る人、6社のかまぼこを食べ分ける「ききかま大会」にチャレンジする人、かまぼこ板3枚に思いを託す「かまぼこ板に書く三行詩」に、一句ひねる人。かまぼこに関連するさまざまなイベントに、春の陽光の下、皆さん楽しんでいらつしました。



小田原
彩時記
かまぼこ
桜まつり

バツ・トナ・ザ・20世紀

あなたが選ぶ小田原重大ニュース
貴重な思い出 さっく さく

酒匂橋の落下

秋山政夫さん(酒匂)



酒匂橋右岸からの撮影。後ろに見えるのが西湖大橋

昭和47年7月12日、私が日本専売公社小田原製塩試験場に勤務していた当時(37歳)のことである。

この日、神奈川県西部は雨が激しかった。特に丹沢山系は集中的な豪雨が数時間続き、山岳地は各所で山崩れが発生した。その豪雨は酒匂川に流れ込み、激流となり、さまざまなものを一気に押し出した。酒匂橋に流れ着いた倒木や貯木場の丸太は、橋の中央箇所の橋脚に引っ掛かり、流勢により橋脚の土台部分かえぐられた。橋は悲鳴をあげんばかりに川上に向かって沈下し、傾き、橋げたが逆「へ」の字

形に落下した。午前10時20分のできごとである。

橋は通行不能となった。丹沢山系からの流木は、河口の西側の網一色、東側の酒匂・小八幡海岸一帯に打ち上げられ、砂浜が見えないほどであった。

通行不能から1〜2日で、橋の歩道を補修して人・自転車・バイクなどが渡れるようになった。特に通勤・通学時は混雑し、風雨時は大変であった。一般車両は西湖バイパス、般東橋を通行していた。一方、小田原駅から国府津駅までの路線バスは、災害後は小田原駅から城東高校前までと国府津駅から酒匂中学校前(鴨

宮入口)までの折り返し運行であった。やがて城東高校前まで行つて山王橋インターに引き返し、西湖バイパスの西湖大橋を渡つて酒匂インターを迂回するようになった。

新しい橋の橋脚は、流雑物がスラムズに流れるように間隔を広げ、従来の9基より5基となり、川上に向かって弓状の構造となった。

昭和48年12月、1年5か月の歳月を経て新しい橋はこの写真の橋よりすこし上流側にやっと完成し、人々は不便な生活から開放されたのである。



小田原製塩試験場から撮影。左から高橋沙織さん、神橋さん、小宮桐奈さん

しード参加から始まる。

の仕事は、北條五代祭りでのハ
小田原の顔となつた彼女だ
さん。明るさや魅力がた
焼いてみようかな(笑)として小宮
こんどはそは粉でクッキでも
と神さん。「家かそは屋なので、
ました。だから教えてください」
「今年からスノーボードを始め
英語を勉強中です」と高橋さん。
きるような仕事に就きたいだ
「将来は、海外の方と交流で
彼女たち。

という楽しい笑顔がまぶしかった
「ミス小田原」のたすきにつけた
では、新しいスリッパに掛けた
3人が決定。4月3日の認定式
予備審査、最終選考会を行い、
小田原が決定した。

2000年度の記念の年のミ

小田原
ミス小田原
2000年度
彩
時記
決まる！

ほくたちの未来のために
大人の出番です!!



「小田原」を考える日曜日

小田原市長選挙

市議会議員補欠選挙

投票日 5月21日(日) 7時～20時

私たち市民の代表者である市長と市議会議員補欠選挙が間近になってきました。この選挙は私たちの生活に直接影響をもたらす代表者を決める大事なものです。

選挙は、有権者の皆さん一人ひとりが政治に参加する第一歩です。皆さんの意志を政治に反映させ、私たちの市民生活をよりよいものにするため、みんなで投票し、私たちの代表にふさわしい人を選びましょう。

投票所には、お子様と一緒に入ることができます。風船も用意していますので、ぜひお越しください。なお、風船には数に限りがありますので、お早目に。

間選挙管理委員会 ☎ 33 1742

不在者投票場所が増えました!

投票日当日、仕事・旅行などで投票所に行けない方は、選挙の告示日から投票日前日まで不在者投票ができます。

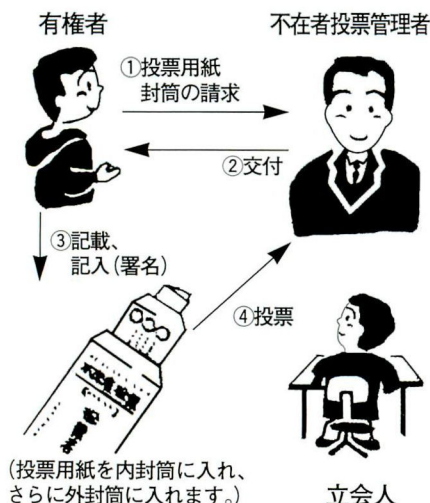
期間 5月14日(日)～20日(土)

- 場所と時間
- ①市役所2階 展示・広報ロビー 8時30分～20時
 - ②マロニエ1階 エントランスホール 8時30分～17時



不在者投票の方法は?

投票日当日の方法に比べると多少異なりますが、簡単にできます。



過去の投票率

選挙名(執行日)	全体	男	女
小田原市長選挙 (平成8年5月19日)	41.15%	39.73%	42.51%
神奈川県知事選挙 神奈川県議会議員選挙 (平成11年4月11日)	52.82%	52.00%	53.61%
小田原市議会議員選挙 (平成11年4月25日)	58.55%	56.21%	60.79%

ぬりえを投票所へ持ってきてね

幼稚園・保育園を通じて「ぬりえ」をお子様に配布します。色をぬってお子さんと一緒に投票所にお持ちください。粗品をお渡しします。(なくなり次第、終了します)

4月2日に酒匂川の中洲で、コアジサシを呼び込む大作戦が繰り広げられました。これは、もうすぐ飛来するコアジサシが、良好な環境で繁殖できるようにと市民300人が愛情を込めて郷づくりを行ったもの。草取りや清掃をはじめ、デコイ(動物に似せた模型)を河原に置くことで、コアジサシを呼び込むことができるのです。市の鳥コアジサシは、ニューギニアやオーストラリアから春に渡来し、7月まで酒匂川の砂礫地で営巣します。昨年は約150羽やってきたコアジサシ。さて、今年は何羽の勇姿が、小田原の夏空を飛び回ることでしょうか。



待ってるよ!
コアジサシ

小田原
彩時記

次のような不在者投票の方法もあります

手続きに日数がかかりますので、詳しいことは、選挙管理委員会にお問い合わせください。

①長期間、出張などにより市外に滞在している場合↓滞在先の市町村の不在者投票場所です。

②病気・負傷・身体障害などにより入院・入所中で歩行が困難な場合↓病院、老人ホームなどの中でできます。

③身体に重度の障害があり、郵便投票証明書をお持ちの場合↓郵便による不在者投票ができます。

※なお、家庭で寝たきりの方の郵便投票については、現在、公職選挙法の改正に向けて自治省で検討しています。

投票率アップに向けて

前回の市長選挙(平成8年5月19日執行)の投票率は41.15%で、過去最低となっていました。選挙管理委員会では、小田原市明い選挙推進協議会の協力も得て、PRに工夫を凝らして、前回以上の投票率を目指しています。

おだわらの建築風景 1

まちで見かけた 小田原の建築物

城下町、宿場町として栄え、明治期には政財界や文学者たちの別荘、保養の地として発展してきた小田原。

古い武家屋敷や農家、町屋のたたずまいは、明治以降の別荘とともにほどよく調和し、小田原独特の情景をかもし出しています。

普段何げなく通り過ぎてしまう建物から、小田原文化の魅力を探ります。

建築士 平井泰延(栄町)



【だるま料理店】

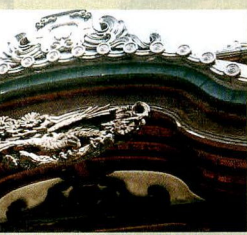
1893(明治26)年創業の老舗。先祖は銭屋五兵衛の後裔達摩仁三郎(金沢の人)で、その達摩を「だるま」と読んで屋号にしたという。

関東大震災で倒壊後、1926(大正15)年に再建されたのが現建物である。

外観は、正面2階屋根の連続した千鳥破風が軽快で、対照的に、1階正面玄関の唐破風は瓦葺で、破風にみごとな彫り物が飾ってあって重厚な

感じがある。

また、東側の2階客室窓の肘掛けを支える、連なった「持送り」や1階の黒板塀が、老舗の雰囲気



を漂わせている。

1階玄関と食堂の檼の大柱、造作材には艶が出てみごと。2階客室は檜の柱と造作材。部屋ごとの床の間にはいろいろ銘木が使われて凝った造り・障子など建具の細工も目を引く。



【船津家の長屋門】

代々旧小船村(現小田原市)の名主を勤めていた船津家の長屋門。かつては六本松へと続く旧鎌倉街道の街道筋にあった。武家の長屋門は多かつたが、農家の長屋門は珍しく貴重である。170年前の1829(文政12)年の建築物(棟札が残されている)。

形の良い萱葺き入母屋造りで、棟に雁振り瓦がのせてある。昨年、南面のみ葺きかえをした際、540束もの萱を要したぜいたくな造りとなっている。

総檼造りの堅牢な門で、左右の部屋は物置。農具・農作物置場などに使われたようである(武家造りの長屋門では仲間部屋。門扉の金具、左右の格子窓にも趣がある。

1988(昭和63)年小田原市重要文化財指定。



広告

気軽なランチメニューから、高級感溢れる本膳料理までお楽しみ頂けます。200名様まで対応できるお座敷、椅子席をご用意しております。お一人様もお気軽にお立ち寄り下さい。



小田原市本町2-9-12 TEL.23-2662
(営)11:00～ 年中無休・P有り

春日の味と心

出張カット 致します



寝たきりのお年寄りなど、外出できない方に出張でヘアカットに伺います



予約にて承っております。お気軽にお電話下さい



ヘアサロン マツマル 小田原市栢山 2898-1 ☎36-1002 広告

国の登録有形文化財に、市所有の4施設が登録されました

受け継がれる

小田原の文化財

明治時代以降の近代文化財は、近年、歴史的な重要性が高まってきたりしますが、まだまだ多くが消滅の危機にあります。そこで平成8年、登録有形文化財制度ができ、今回新たに小田原市の4つの建造物が登録されました。

この登録を受けると一定限度の改造は自由なことから、建物を活用しながら保存できるようになります。また、家屋の税額が軽減されるほか、保存や活用のための修理を行う場合に、国からの補助を受けることができます。

文化財保護課 33 1717



小田原文学館

昭和12年、白秋童謡館の建物と同じく、田中光顕が別邸として建てたスペイン風建築。平成6年、瀟洒な洋館の保存もかねて、小田原の出身およびゆかりの文学者にまつわるさまざまな資料を展示する小田原文学館に改装された。

豊かな自然に恵まれ、固有の歴史的風土に彩られた小田原は、日本の近代浪漫主義の先駆者として知られる北村透谷や芥川賞作家で文化勲章を受賞した尾崎一雄など、すぐれた文学者を生んだが、その魅力は、各界の多くの人々の心をも惹きつけ、谷崎潤一郎や北原白秋などの著名な作家が移り住んだことでも知られている。

小田原文学館 南町2-3-4 ☎22-9881

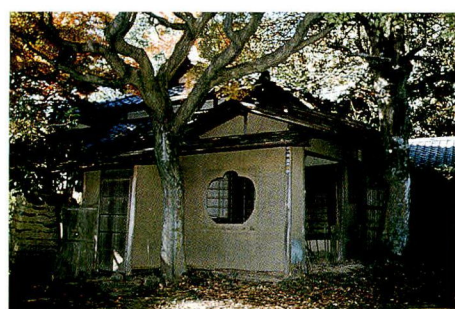
松永記念館茶室

葉雨庵

益田孝(鈍翁)、松永安左エ門(耳庵)とともに小田原の近代三茶人と呼ばれる野崎廣太(幻庵)が建てた茶室。

日本経済新聞社の前身である中外商業新報や三越などの社長を歴任した野崎は、益田を慕って小田原に住み、自らの窯で茶道具を焼いた。野崎は、葉雨庵に犬養毅(元総理大臣)なども招いており、多数の茶道愛好家が茶を楽しんでいた。

葉雨庵 板橋941-1 ☎22-3635(松永記念館)



松永記念館 老櫓荘

電力王と言われ、実業界で活躍するかたわら茶道に精進し、最後の数寄茶人といわれた松永安左エ門(耳庵)は、昭和21年に市内板橋に老櫓荘を建て、ここに

移り住んだ。彼は長年にわたって収集した古美術品を公開するために松永記念館も建築した。

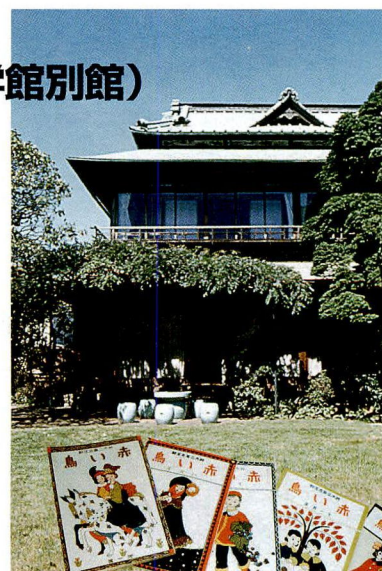
老櫓荘 板橋513-7 ☎23-1377(郷土文化館)

白秋童謡館 (小田原文学館別館)

大正13年、元宮内大臣田中光顕が別邸として建てた和風建築。平成10年、北原白秋の小田原での童謡創作を紹介する白秋童謡館として整備された。

生涯で40回以上もの転居を重ねた白秋が、一番長く暮らし、「揺籠のうた」「赤い鳥小鳥」「ベチカ」など、代表的な童謡の創作の舞台ともなった小田原は、まさに「童謡のふるさと」と呼ぶにふさわしく、館内には、白秋が市内伝蔵寺境内に建てた「木兎の家」の模型、そして自筆スケッチや原稿・童謡集などが展示されている。

白秋童謡館 南町2-3-18 ☎24-1055(図書館)



Odawara Driving School

大型車実習校日は11日間で卒業可(学科なし)
けん引実習校日は7日間で卒業可(学科なし)
普通車も場内2時限、路上3時限乗れます。

教習科目

大型・けん引・普通・普通自動二輪

〈ローン制度あり〉

蛸田駅より徒歩5分

スクールバスあり

駐車場あり

神奈川県公安委員会指定
小田原ドライビングスクール
蓮正寺540-2 TEL(36)1215~7



広告



菜の花・和菓子歳時記

6月 夏柑ゼリー

小田原の海岸線、石橋から江の浦にかけてとれる地元の山室光正さん達の無農薬夏柑をつかった夏の水菓子。酸味と甘味が程よい爽やかな味わい。

菜の花店主 高橋台一

和菓子・菜の花 小田原駅前お城通り
☎23-1567 OPEN 10:00AM~6:00PM

阿藤 海 Kai Atou さん (俳優・小田原城下町大使)

小田原の海で育った俺

「くよくよするなよ。悩みがあったら、でっかい小田原の海に向かって腹の底から叫ぼうよ。顔を持ち上げ、じっと水平線を見ながら海風を深呼吸。ニコッと笑えば元気が出る」。身長183cmの巨体から発する、でっかい声には説得力がある。俳優阿藤海さん。小田原の海に、ちなみにで命名したという。

「地声が大いなのは、わけがある。白鷗中・西湘高校時代のテスト当日朝には、登校コースの酒匂川や山王川といったところで大きな声で暗記した。一夜つけならぬ、朝づけだよ。おかげでこんなにでっかい声になっちゃった」と振り返る。



少年時代はプロ野球選手を、学生時代は弁護士を志すが果たせず、気がつけば蜷川幸雄さん演出の舞台で役者としてのスタートを切っていた。現在はラジオ・テレビに大活躍。

今春4月からはNHK連続テレビ小説「私の青空」で人情味あふれるトラックの運転手役でレギュラーを務



める。「一生懸命に生きている男の役をうまく演じたいね。タオルでねじりハチマキ姿がよく似合うだろう。この役は地のままでできるんだ。がははは……」。

「目標はトーク・バラエティ番組、ドラマ・映画、何でもできるマルチ芸人さ。でも、60歳になつたらキムタクにも負けないくらいの二枚目役をやってみたいんだ」と豪快に笑う。エッセイ集「この熱き人たち」を4月に発売。人間阿藤海の魅力をたっぷり、愛すべき人々との交流で半生を振り返っている。

亡き両親を思いだし、ふっと墓参りに立ち寄る。同窓会ではなつかしい友人とわんぱく談義で花が咲く。3・4月には「城下町大使としてイベントに参加。今でも小田原は阿藤さんの大切なふるさとである。」

ふるさとではぐくんだ限りなく大きな心と身体で人々を魅了する。これからの彼の活躍が、きっと私たちに元気を届けてくれるだろう。

※P10かまぼこ桜まつりを参考



輝く 小田原人

湯川和雄 Kazuo Yukawa さん (小田原室内合奏団団長)

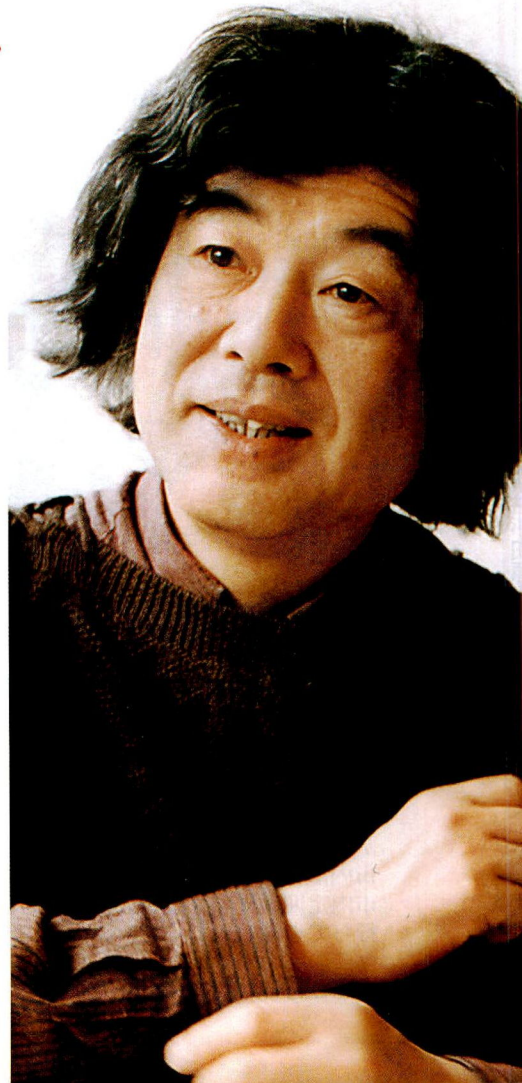
音楽と小田原と私

「小田原でなくては聴けない演奏会。そんな演奏会を開くことが夢ですね。」

ここは、東京の上野。現在の湯川さんの活動の拠点である。緑に囲まれた上野の森を、懐かしい銀幕でも見るように眺めながら湯川さんが語り始めた。「私が音楽に関わっていくんだ、と思ったのは中学生の時でした」。戦争によって小田原に疎開してきた湯川さんは、路面電車が走る人なつこいまちと出会った。高校卒業まで過ごした小田原の暮らしは、海と山の自然に囲まれ、とても心温まる毎日だったという。

もともと笛が好きだった湯川さんは、このまちでフルートを吹き始め、芸大に進学し、予感どおり音楽の道を歩みだした。大学院修了後は、音楽家としてその天賦の才能を発揮。東京都交響楽団で人々に感動をもたらしながら、母校の芸大では室内楽の講師として若手の育成に努めた。小田原では平成7年に小田原室内合奏団を創設し、団長として本物の音楽を私たちに届け続けている。

「最近、音楽もビジネス色が強くなっています。地方の都市ではなかなか採算がとれません。そのため東京中心のコンサートが多くなっていました。しかし、地



「バッハ、モーツァルトを中心とした、華やかで色彩豊かな演奏会にしたいと思っています」小田原室内合奏団定期演奏会が、6月3日(土)に市民会館で開かれる。詳しくは事務局まで。☎23-3881

方でコンサートを開くと、本当に音楽を楽しむ人たちがやってきてくれます。これは東京では味わえない感動ですよ」とうれしそうに語ってくれた。自身が小田原室内合奏団での定期演奏会をとても楽しみにしている。合奏団は、一線で活躍する芸術家と、この活動に賛同するボランティアの会員が、自らの会費で運営費をまかなっている。まさに手作りの合奏団なのである。「皆さんの生活のリズムの中に、音楽会に行く習慣が入り込むようになればいい、と思いつながらフルートを吹いています」。

湯川さんは、今年定年を迎え、東京都交響楽団と芸大講師としての仕事を卒業する。したがって、上野での生活も終わる。

小田原への郷愁がどんどん積もる、という湯川さんは、これからは小田原のまちに何か恩返しをすることを目標にしているという。「新しくできた銅門の前でも演奏してみたいですね。小田原が、文化の香り高いまちになるよう力になりたい」と熱く語る湯川さん。

これからの活動に期待が高まる。

心におみやげ、
見つけて小田原。



あこがれの小田原の味、再発見！ 小田原名産・食めぐり モニターツアーに興奮

言わずと知れた小田原の名産、かまぼこと梅干し、そしてひもの。普段、なにげなく口にしている味ですが、実は市外の人々にとっては、あこがれの小田原ブランドなのです。そこで登場したのが、バスによる「小田原名産・食めぐり」モニターツアー。このツアーは、小田原城や市内の観光名所を訪ねるのではなく、小田原の名産が作られる現場を実際に見てまわるというユニークなもの。51人の定員に、市内外から350人もの応募が殺到しました。3日観光ツアーは好評。これが新しい小田原の観光ツアーにつながるのでは、と期待がふくらみます。

9:50
小田原駅を出発！

「どんな工場が見られるの？」とわくわくする参加者たち。



梅干し工場に到着！

「えっ、梅干しってこんなにおいしかったんだ」と驚きの声。「小田原の梅はくせになるよ！」と説明者も力が入る。



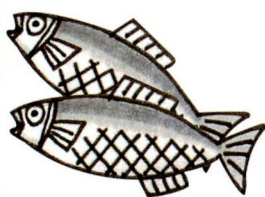
ツアーの目玉！

お待ちかねの特別料理に大満足。地場産の食材を用いた特別料理に舌鼓を打つ参加者たち。「地のしらすの天ぷらは最高だったね」と笑顔。食前酒の梅わいんも好評だった。



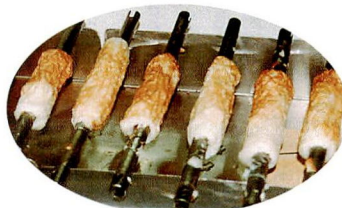
ひもの工場で、魚の開き方を学習！

「小田原のアジは、わざわざ横浜や東京からも所望にくるよ。やっぱりひと味違うね」



締めくくりは、かまぼこ工場でちくわ作り体験！

「あれ、棒につかないぞ、難しいなあ」と奮闘する参加者たち。それでも、苦労して作った焼きたてちくわをおみやげに。



仕掛け人は、市民のみなさん

このツアーを企画したのは、市民の皆さんから公募した「観光おだわら魅力アップ委員会」の方々。平成10年に観光元年を宣言した小田原市が、市民の方にも一緒になって観光振興に取り組んでいたこうと設置した組織です。委員の方々は、この7月までの2年間で、テーマごとに3つのグループに分かれ、市内散策コースのリーフレット作成、小田原名物料理の開発、市内定期観光バス運行の働きかけなど、さまざまな取り組みを行ってきました。

この努力が、明日の新しい小田原の魅力をさらにアップしていくことでしょう。

☎観光課 ☎33-1523

15:30

胸一杯の満足感とともに小田原を後にした。

小田原の魅力を再確認し、またの再会を誓った楽しい旅だった。